

国家戦略級特許

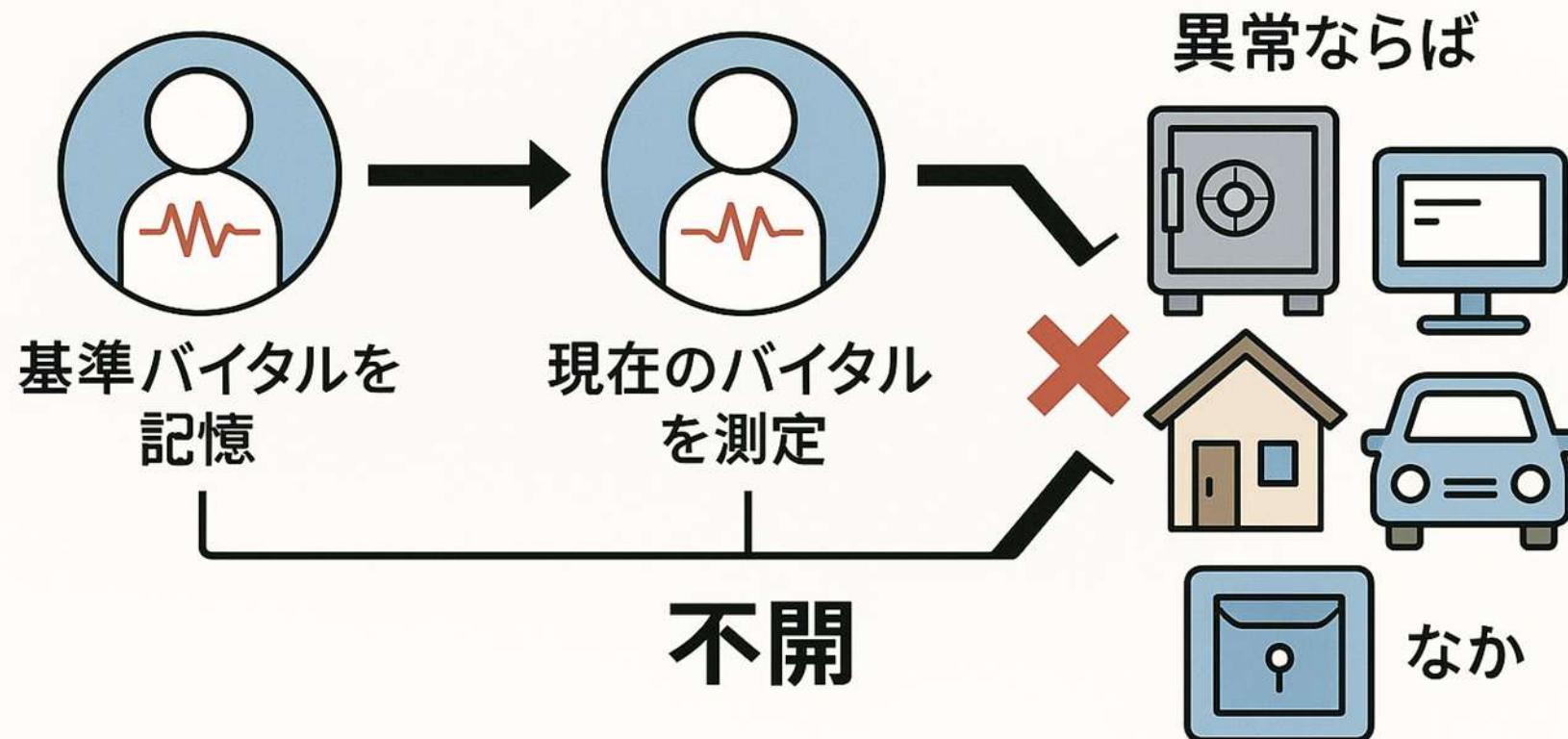
統合特許セキュリティ等の提案書

バイタルセキュリティ（特許第 7780682 号）× 音全般・緊急通報（特許第 7796450 号）

- ・熊の出現 = 音特許により通報と通知（位置特定含む）
- ・事故 = 衝突、転倒の音特許により通報と通知（位置特定含む）
- ・故障 = 機械の故障、故障前を音特許により通報と通知（位置特定含む）
- ・孤独死 = バイタルセキュリティにより異常判別、音特許により転倒など通知と通報（位置特定含む）
- ・器物損壊（自動車・無人店舗・営業外店舗・自動販売機・賽銭箱など） = 音特許により通報と通知（位置特定含む）
- ・詐欺や不正アクセス = バイタルセキュリティにより振込やアクセスを禁止、音特許により通報と通知（位置特定含む）
- ・飲酒運転 = バイタルセキュリティによりエンジン始動禁止、音特許により通報と通知（予防・対策・抑止力効果：位置特定含む）
- ・自動車窃盗 = バイタルセキュリティによりドア開け禁止、ドア開け音により音全般特許の通報と通知（時間指定設定など：位置特定含む）
- ・金庫からの横領 = バイタルセキュリティにより鍵解除の禁止、解除等をする音により音全般特許の通報と通知（時間指定設定など：位置特定含む）
- ・強盗、脅迫、強要 = バイタルセキュリティにより異常判別、音特許により転倒など通知と通報（位置特定含む） 等々に効果となる特許を取得。

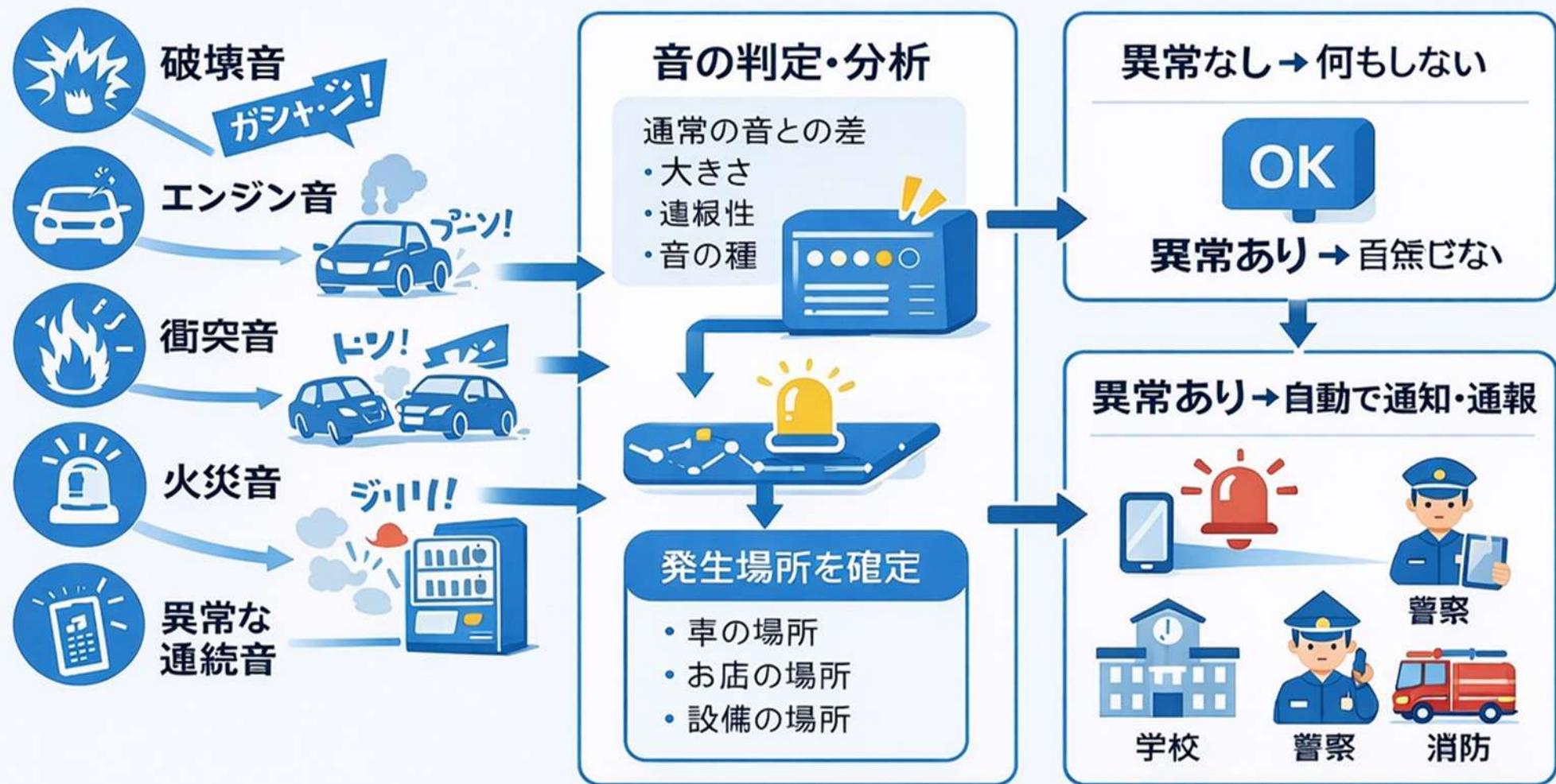


セキュリティ バイタルの状態で判断





複数の音情報の変化に基づく緊急判定と自動通知・通報の仕組み



動画解説（QR コード及び URL）：統合特許権の権利範囲と内容



<https://youtu.be/hxV3rdUfkIY?si=cpQgTatxBrvnanyo>

動画解説（QR コード及び URL）：バイタリティ分析（生体及び動体の分析）の異常判別又は正常判別の解除又は施錠によるセキュリティ特許



<https://youtu.be/cS5JBB-AZ74?si=AETwztdk4bXhqFah>

動画解説：音全般の分析及び解析の緊急通報システムおよびプログラム特許



<https://youtu.be/A7Aq6yTJfEU?si=kt0yIGvpCvf-C7nx>

犯罪率（ここでは“導入対象内”）

- 成立犯罪率 = (成立した犯罪件数) / (期間)

※「件数」または「1000 台あたり」「1000 人あたり」など、分母を固定して見る指標。

抑止力率・試行（未遂含む）の減少率 = $1 - (\text{導入後の試行回数} / \text{導入前の試行回数})$

例：試行 100 → 70 なら抑止力率 30% 孤独死率（ここが特に注意）“死亡そのもの”は防げないケースがあるため、実務では次のどちらかに落とします。

- 孤独死（発見遅延）率：死亡後 24h 以上未発見など

- 救命可能時間内の発見率：倒れてから○分以内に介入できた割合

音特許は「うめき声・転倒音等十位置情報で緊急推定し、病院・家族・職員等へ自動通報」まで書かれているため、ここに効きます。バイタル側も見守り用途で「孤独死対策、救急対応の早期化」と明記されています。

「成立犯罪率」の下がり方は、防御率から計算できる 成立犯罪率（導入対象内）は、まず近似的にこう置けます。

- 成立率 = 試行回数 × (1 - 防御率) つまり、試行回数が変わらないと仮定すると、成立犯罪率の改善倍率は $(1 - \text{防御率}_{\text{後}}) / (1 - \text{防御率}_{\text{前}})$ で出ます。

この KPI 表（設計値）には、防御率の従来→導入後が載っています。

複合導入（バイタル+音）での「犯罪率」「抑止力率」の目安 音特許は「自動通報」「不達対策（多チャネル+再送）」「証拠化（撮像+暗号化保存）」が整理されており、これが**抑止力（試行回数の減少）と防衛（逮捕・介入の確率上昇）**に効きます。（抑止は“見える化+通報確実化+証拠化”で上がりやすい）

以下は「成立犯罪率の低下（=犯罪率の低下）」を、設計 KPI として見積もるレンジです。

※「バイタル単体の防御率」はこの表の数値を使い、複合は“音で抑止（試行減）+通報確実化+証拠化”が乗るとしてレンジ化しています。

A) 車両盗難（スマートキー窃取/リレー等）

- ・従来：防御率 45% → バイタル導入：**92%**
- ・成立犯罪率（試行一定）：残り（1-防御）が 55% → 8% なので、約 85.5% 低下
- ・複合（音を加えた目安）
- ・抑止力率（試行減）：20～45%（破壊音検知＋自動通報＋証拠化が周知される前提）
- ・成立犯罪率の低下：約 **88～95% 低下**（上の 85.5% 低下に“試行減”が乗るイメージ）

B) 強要（カージャック/脅迫）

- ・従来：防御率 5% → バイタル導入：**80%**
- ・成立犯罪率（試行一定）：残りが 95% → 20% なので、約 **78.9% 低下**
- ・複合（音を加えた目安）
- ・抑止力率（試行減）：10～30%（強要是“確信犯”が混ざるため控えめ）
- ・成立犯罪率の低下：約 **83～90% 低下**（通報確実化と第三者介入が上振れ）

C) 振込詐欺（誘導・APP 詐欺：本人が実行）

- ・従来：防御率 20% → バイタル導入：**70%**
- ・成立犯罪率（試行一定）：残りが 80% → 30% なので、約 **62.5% 低下**
- ・複合（音を加えた目安）
- ・抑止力率（試行減）：5～20%（遠隔詐欺は“音が入らない”ケースもあるため）
- ・成立犯罪率の低下：約 **68～77% 低下**（止める＋早期通知の分だけ上振れ）

D) 強要送金（脅迫・恐喝：本人が実行させられる）

- ・従来：防御率 5% → バイタル導入：**80%**
- ・成立犯罪率（試行一定）：約 **78.9% 低下**
- ・複合（目安）：抑止力率 10～25%、成立犯罪率 約 **83～90% 低下**

孤独死率は「発見遅延率」で出すのが実務的 音特許は、介護施設のベッド等で「うめき声・転倒音+位置情報」から緊急推定し、病院・家族・職員へ自動通報する例が明記されています。

バイタル側も見守り用途で「孤独死対策、救急対応の早期化」と書かれています。

したがって、見積もりは次の 2 段で考えるのが嘘が少ないです。

孤独死率（発見遅延型）の低下目安（導入世帯内）

- 抑止ではなく“早期発見”で効くタイプ
- 目安：発見遅延（例：24h 以上）を 30～70% 低下
- 低め（30%）：通知が届いても駆け付け体制が弱い
- 高め（70%）：一次連絡先→二次連絡先→事業者など運用が整い、多チャネル通知が効く ここは「音で気づく」+「バイタルで異常を検知して通知」+「連絡網（家族・職員・自治体）を設計」した時に最大化します。

まとめ→複合（7780682+7796450）の設計 KPI 目安（導入対象内）

- ・犯罪率（成立犯罪率）の低下：

- ・車両盗難：約 88～95% 低下（特に上振れ）

- ・強要（カージャック・強要送金等）：約 83～90% 低下（従来が弱いので伸びが大きい）

- ・誘導型詐欺：約 68～77% 低下（環境依存は残る）

- ・抑止力率（試行回数の減少）：

- ・破壊・盗難・器物損壊など“現場型”で 20～45%

- ・強要・確信犯で 10～30%

- ・遠隔詐欺で 5～20%（音が届かないケースがある）

- ・孤独死率（発見遅延型）の低下：30～70% 低下（連絡網運用で変動）

エンドポイント（PC/企業端末）領域：KPI（従来→導入後）

- ・詐欺誘導・強要操作（本人が端末で実行してしまう）

防御 10%→78%／防衛 20%→90%／対策 25%→85%／予防

10%→75%

・資格情報の窃取/不正ログイン 防御 70%→92%／防衛 75%→88%／対策 70%→85%／予防 60%→82%

ここでも「伸びが大きいのは“本人が操作してしまう”系」と説明されています。

注意事項（%・確率の扱い）

- ・本資料内の%・確率は、導入設計のための「設計 KPI（モデル値）」です。実測・実証があれば置換してください。
- ・Pnotify（通報到達確率）などは、p（単発到達率）・n（チャネル数）・r（再送回数）等の前提に依存します。
- ・100%断定は避け、「99.999%+（モデル）」等で表示します。

重要表示：99.999%+（モデル） ※到達確率の表示例。前提と式は本文で公開

エグゼクティブサマリー（最重要%・確率）

振込（平均）：37.1% → 80.2% (+43.1pt / 約 2.16 倍) ※設計 KPI（説明書）

強要送金（防御）：5% → 80% ※本人操作でも止める

誘導詐欺（防御）：20% → 70% ※誘導・APP 詐欺

Pnotify（通報到達確率）：99.999%+（モデル） p=0.85, n=3, r=2 の例（独立近似）

- バイタル特許は「危険な操作を止める（防御）」、音特許は「自動通報+再送+証拠化（防衛・予防）」を担います。
- 統合により、強要（本人が操作してしまう）と、操作不能（押せない）を同時に対策できます。
- 本資料は、請求項別の権利範囲 → 従来比較 → KPI → 事例 → 導入設計の順で整理します。

統合コンセプト（止める×知らせる×残す）

- 音の変化（破壊音・衝突音・火災音・異常連続音等）から危険を検知し、状況推定。
- バイタル（心拍・呼吸・体温・血圧等）の偏差で危険状態を判定し、解錠・実行を規制。
- 異常時は複数先へ自動通知・通報。多チャネル+再送で不達を低減。
- 推定開始で撮像し、音・映像を暗号化して外部保存（証拠化）。

従来との比較（課題→改善→解決）

- 従来課題①：強要・誘導では「本人が操作」するため認証が通ってしまう。→バイタルで実行段階を止める。
- 従来課題②：転倒・急病等では「押せない」。→音で自動通報し初動を短縮。
- 従来課題③：届かない／残らない。→請求項 5（再送）+請求項 6-7（証拠化）で対策。
- 統合効果：防御（止める）+防衛（被害縮小）+予防（事件化前介入）を同時に底上げ。

特許第 7780682 号（バイタルセキュリティ）：請求項別の権利範囲（要点）

- 請求項 1：複数バイタルの偏差（基準との差）を合計し、閾値超で解除・実行を規制（止める）
- 請求項 2：正規化偏差により個人差・センサ差の影響を低減
- 請求項 3：解除規制の発生を外部へ通知・通報
- 請求項 4-5：心拍・呼吸・体温・血圧など複数種類のバイタルを対象化
- 請求項 6-8：対象（家・金庫・車・PC・ネットワーク・電子データ・重要処理等）を拡張
- 請求項 9-11：方法クレーム（基準設定→測定→偏差計算→判定→規制／通知）

解説動画：<https://youtu.be/cS5JBB-AZ74?si=AETwztdk4bXhqFah>

特許第 7796450 号（音全般・緊急通報）：請求項別の権利範囲（要点）

- 請求項 1：音+位置から状況を推定し、連絡先を選択して複数先へ自動通報（骨格）
- 請求項 2：搭載対象（車両・ウェアラブル・ランドセル等）の拡張
- 請求項 3：音圧・キーワード等をトリガに推定開始（誤検知抑制）
- 請求項 4：音が取得できない場合でも距離等で緊急推定（救済）
- 請求項 5：多チャネル+再送（不達対策）
- 請求項 6：推定開始で自動撮像（証拠化）
- 請求項 7：音+映像を暗号化し外部保存（改ざん耐性・説明責任）
- 請求項 8：学習モデル（音+位置→状況）
- 請求項 9：プログラムクレーム（実装形態の広がり）

解説動画：<https://www.youtube.com/watch?v=A7Aq6yTJfEU&authuser=0>

統合アーキテクチャ（構成要素・データフロー）

- 端末側：マイク、位置情報、バイタルセンサ、カメラ（任意）
- 推定：音判定・分析、状況推定（モデル／ルール）、バイタル偏差判定
- アクション：解除・実行規制（バイタル）、自動通知・通報（音）
- 証拠：撮像、暗号化、外部保存（音）
- 運用：通報先ルーティング（状況に応じて最適化）、監査ログ、保存期間・権限制御

KPI モデル（%・確率を公開：嘘のない前提）

- P_{notify} （通報到達確率）： $P_{notify} = 1 - (1 - p)^{n*(1+r)}$ （独立近似）
- p ：単発・単チャネル到達確率、 n ：チャネル数、 r ：再送回数
- E （証拠化）=0/1、 S （連絡先最適化）=0/1 を加点ルールに反映
- 上限 100%のため「99.999%+」等で表記（100%断定はしない）

例	p	n	r	P_{notify} （表示）
保守	0.70	2	1	99.190%
標準	0.85	3	1	99.999%
強化	0.85	3	2	99.999%+

領域別 KPI（設計 KPI：説明書ベース）

- ・ 振込（誘導詐欺）：防御 20%→70%、防衛 25%→85%、対策 40%→80%、予防 20%→75%
- ・ 振込（強要送金）：防御 5%→80%、防衛 15%→90%、対策 25%→85%、予防 15%→75%
- ・ 振込（口座乗っ取り）：防御 85%→92%、防衛 65%→80%、対策 75%→80%、予防 60%→70%
- ・ ※統合では、音特許（請求項 5-7）の加点により防衛・予防が上振れしやすい。

犯罪率低下・抑止力率（モデル）

- ・ 成立犯罪率（導入対象内）を「試行回数×(1-防御率)」で近似し、従来比の低下率を算出。
- ・ 抑止力率は「Pnotify（すぐ呼ばれる）+証拠化（残る）+周知」で上昇する前提をモデル化。
- ・ 遠隔型（誘導詐欺）と現場型（破壊・盗難）で係数を分け、過大評価を避ける。

抑止力率（例）：10%～45%（モデル）※運用・周知・連絡網で変動

孤独死（発見遅延）率の低下（モデル）

- ・ 孤独死率は「死亡」そのものより「発見遅延（例：24h 以上）」で評価するのが実務的。
- ・ 音（うめき声・転倒音）+通報到達（Pnotify）+連絡網設計で、発見遅延率を低下。
- ・ モデル目安：発見遅延を 30%～70%低下（運用体制に依存）。

発見遅延率の低下：30%～70%（モデル）

ユースケース集（誰が／何を使って／何ができる）

- ・ 各ページ：導入主体／構成要素／期待 KPI（%）／運用ポイントを整理。

ユースケース：強盗強要（店舗金庫）（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - バイタル異常で解錠を規制（防御↑）
 - 異常時は自動通報+再送（防衛↑）
 - 撮像+暗号化保存で証拠化（抑止↑）

ユースケース：強盗強要（店舗金庫）（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項6）+暗号化外部保存（請求項7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：強盗強要（店舗金庫）（運用・PoC 設計）

- PoC期間：2-8週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：強要送金（金融・個人）（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - 防御 5%→**80%**（設計 KPI）
 - 第三者介入（家族・銀行）を早める
 - 通報到達 99.999%+（モデル）設計が可能

ユースケース：強要送金（金融・個人）（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項 5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項 6）+暗号化外部保存（請求項 7）

Pnotify : **99.999%+**（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：強要送金（金融・個人）（運用・PoC 設計）

- PoC 期間：2-8 週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：誘導詐欺（ネットバンキング）（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク + 位置 + （任意）バイタル + 通信 + （任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+ 知らせる（通報）+ 残す（証拠）を一体化
 - 防御 20%→70%（設計 KPI）
 - 端末側バイタルゲートで実行を止める
 - 状況に応じた通報先最適化

ユースケース：誘導詐欺（ネットバンキング）（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル + 再送（請求項 5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項 6）+ 暗号化外部保存（請求項 7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：誘導詐欺（ネットバンキング）（運用・PoC 設計）

- PoC 期間：2-8 週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：車両盗難（破壊音+位置）（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - 破壊音・エンジン音で推定開始
 - 所有者・警備・警察へ自動通報
 - 不達対策+証拠化

ユースケース：車両盗難（破壊音+位置）（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項 5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項 6）+暗号化外部保存（請求項 7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：車両盗難（破壊音+位置）（運用・PoC 設計）

- PoC 期間：2-8 週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：無人店舗・自販機破壊（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - 連続衝撃音で推定開始
 - 警備・管理者へ自動通報+再送
 - 撮像+暗号化保存

ユースケース：無人店舗・自販機破壊（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項6）+暗号化外部保存（請求項7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：無人店舗・自販機破壊（運用・PoC 設計）

- PoC期間：2-8週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：火災・警報音（施設）（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - 警報音で自動通報
 - 初動短縮で延焼リスク低下
 - 証拠化で検証と改善

ユースケース：火災・警報音（施設）（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項6）+暗号化外部保存（請求項7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：火災・警報音（施設）（運用・PoC 設計）

- PoC期間：2-8週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：転倒・急病（在宅見守り）（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - 転倒音・うめき声を検知
 - 家族・介護・救急へ段階連絡
 - 発見遅延率30-70%低下（モデル）

ユースケース：転倒・急病（在宅見守り）（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項6）+暗号化外部保存（請求項7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：転倒・急病（在宅見守り）（運用・PoC設計）

- PoC期間：2-8週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：学校・自治体（不審者・事故）（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - 異常音で管理者へ自動連絡
 - 必要先へ通報先最適化
 - 証拠化で説明責任

ユースケース：学校・自治体（不審者・事故）（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項6）+暗号化外部保存（請求項7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：学校・自治体（不審者・事故）（運用・PoC 設計）

- PoC期間：2-8週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：企業端末（誘導・内部不正）（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - 誘導・強要操作：防御10%→78%（設計KPI）
 - 危険状態は実行を規制
 - SOC/CSIRTへ自動通知

ユースケース：企業端末（誘導・内部不正）（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項6）+暗号化外部保存（請求項7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：企業端末（誘導・内部不正）（運用・PoC設計）

- PoC期間：2-8週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

ユースケース：官公庁・重要インフラ（概要）

- 誰が：導入主体（例：管理者／運営会社／家族／警備）
- 何を：マイク+位置+（任意）バイタル+通信+（任意）カメラ
- 何が：止める（規制）+知らせる（通報）+残す（証拠）を一体化
 - 重要操作前のバイタル判定
 - 異常時の実行停止+通報
 - 監査・ログ・権限制御

ユースケース：官公庁・重要インフラ（%・確率の設計ポイント）

- 防御率：バイタルで実行を止める（本人操作でも成立しにくくする）
- 防衛率：多チャネル+再送（請求項5）で通報到達を最大化
- 予防率：通報先最適化（検索・選択）で介入を早める
- 証拠化：自動撮像（請求項6）+暗号化外部保存（請求項7）

Pnotify : 99.999%+（モデル） p/n/r で設計

ユースケース：官公庁・重要インフラ（運用・PoC 設計）

- PoC期間：2-8週（現場ログ収集→閾値調整→誤検知/見逃し評価）
- KPI：初動時間、到達率、不達率、誤検知率、見逃し率、被害規模
- 運用：一次連絡→二次連絡→外部機関のルーティングを明確化
- プライバシー：保存期間・閲覧権限・暗号鍵管理を設計

導入口ードマップ／PoC 設計（全体）

- Phase 1：検知・通知（ルールベース）
- Phase 2：連絡先最適化+多チャネル+再送
- Phase 3：証拠化（撮像+暗号化保存）と運用規程
- Phase 4：学習モデルで継続改善（誤検知・見逃し低減）

プライバシー／ガバナンス（提出用要点）

- 取得：必要最小限（目的限定）
- 保存：暗号化、保存期間、削除ポリシー
- 閲覧：権限管理、監査ログ
- 通報：必要先限定、誤通報時のフロー

付録：統合実装チェックリスト（YES/NO）

- 音：推定開始条件（音圧／キーワード）、距離救済、再送、多チャネル、証拠化
- バイタル：基準値の取得、複数バイタル、正規化、閾値設計、規制動作
- 運用：通報先 DB、連絡先最適化、監査、保存期間、権限制御

ライセンス提供の流れ

- ①守秘義務契約（NDA）締結
- ②権利範囲とその内容と金額や諸条件などの打合せ
- ③打合せ内容確定
- ④審査
- ⑤基本合意契約締結
- ⑥着手金完了
- ⑦本契約締結

といった順番にて進めてまいります。※最短 2 週間となります。